



沖縄病院



地域医療連携室ニュース

第93号

平成30年1月 No.93号

独立行政法人国立病院機構

沖縄病院

地域医療連携室

〒901-2214

沖縄県宜野湾市我如古3-20-14

TEL (098) 898-2121 (代)

FAX (098) 898-6433

(連携室直通)

ホームページ

www.okinawa-hosp.jp/

ことうしん ゆたさるぐとう お願いします
くとうしん ゆたさるぐとう うにげーさびら



新年のご挨拶

連携室室長（内科部長）仲本 敦

新しい年を迎え、皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年も、多大なご支援、ご協力を賜りありがとうございました。沖縄病院は、地域の皆様をはじめ様々な方々からのご支援、お力添えを受け、頼りにされ愛される病院へとより良い方向に進んでいます。

平成27年9月には待望の神経内科（筋ジス）新病棟が完成し、平成28年1月には脳・神経・筋研究センター（諏訪園秀吾センター長）が開設されました。今後も増えることが予想される認知症・パーキンソン病をはじめとする神経内科疾患の診断と治療において、診療領域の拡大とMRI、脳波、神経筋電気生理検査などを駆使し専門領域のさらなる向上に努めるとともに、臨床研究面もさらに充実させます。

そして平成28年11月には、念願であった本館（一般病棟）の立て替え工事が開始され、平成29年12月に、旧本館のすぐ南側の地に6階建ての新本館が完成しました。今春からは、すべての診療科が、新病棟での診療となります。

呼吸器内科、呼吸器外科では、協力の下、肺癌診療の拠点として、年間200例以上の肺癌の新患の患者様方に総合的な治療を御提供しています。定期的にカンサーボードと呼ばれる呼吸器外科専門医、呼吸器内科専門医、放射線治療専門医、病理専門医で治療方針を検討する会議も開いています。

緩和ケア医療はさらに充実した医療・看護の提供をめざします。緩和ケア専門医、認定看護師、臨床心理士、薬剤師、管理栄養師を含む職種を超えたチームで取り組んでいます。

消化器科では内視鏡検査を一層充実させ、痛みのない検査や内視鏡治療の技術の向上に努めています。大腸CT内視鏡検査も新しく導入されています。

私ども地域連携室スタッフ一同、今後とも地域の医療機関の先生方、スタッフの皆様方との連携を深め、皆様から「信頼」「信用」され、さらに安心して患者様を御紹介頂ける病院となることを心がけていきます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。



脳・神経・筋疾患研究センター 設立2年目を迎えて

脳・神経・筋疾患研究センター長 諏訪園秀吾

2016年1月1日に沖縄病院における院内組織として、「脳・神経・筋疾患研究センター」が発足しました。このセンターは超高齢化社会の到来を念頭に置き、健全で豊かな社会の増進に寄与し、人が人であるために必須の組織系である脳・神経・筋といった神経系全般の構造と機能に関する多方面の研究手法を用い、より幸福な人間存在の在り方の解明と、より幸福な社会の拡充を目指し、正常と疾病の両面からの研究推進を図るとともに、地域に根差した認知症をはじめとする様々な脳・神経・筋疾患の病態解明と克服に向けた診療と研究を担うことを目的としています。

当センターの地域の貢献の一環として、2016年には希少疾患の患者会2つにおいて講演会を行っており、講演を聴いてくださった患者さんからの反響として、「センターが設立されたことは既存の一般診療のみでなく、新しい治療へのチャレンジ・研究が行なわれていること、患者さん達が忘れられていないことが再認識された」との声をいただいています。また講演の中で一部触れた「新しい治療を試してみたいから入院させてほしい」というご希望も聞かれたので、地域へ積極的に出かけていき、診察室ではない場面で患者さん達から直接ニーズを聞くことに大きな意義があると感じております。

近年、ロボットスーツHALを用いた画期的なリハビリテーションにより、悪化一方であると考えられてきたALSや筋ジストロフィーといった疾患にも一時的にせよ、歩行や動作が改善する治療方法が生まれ実用化されてきています。当院は唯一、HALを用いた保険診療を行っている病院であり、最先端の治療を実践しております。

また、神経難病においては意思伝達手段をいかにして長期に保てるかが、地域でQOLを保ちながら在宅医療を継続できるかどうか大きく影響してきます。お互いに「ありがとう」と言い合える患者さん・ご家族である方が在宅での長期療養を継続しやすいようです。

このため、当院では意思伝達装置の早期導入にも意を注いでおり、単なる身体面のみではない、多方面のリハビリテーションを行うように心がけています。

更に、当院は沖縄県で唯一の難病医療拠点病院を拝命しております。沖縄県全体での神経難病を中心とした地域連携を推進していく使命をいただいております。様々な病院・医院・事業所・施設・地方公共団体などと連携を行う中で、皆様のお力添えをいただきながら、沖縄県全体の診療レベルの向上に寄与していきたいと考えております。他職種間での効率の良い情報共有のため、「えんぼーと」というインターネット上での情報共有の仕組みも実働しております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

ロボットスーツ（HAL）を使った歩行訓練の様子です。PT2名で安全に考慮しながら行っています。

興味のある方は見学もどうぞ～♪



☆毎年恒例！クリスマスコンサート☆

外来ホールにて緩和ケアチーム主催のクリスマスコンサートを開催いたしました。総勢100名を超える参加があり、出席された患者様・ご家族をはじめ、職員一同、笑顔が溢れました。そんな中、突然あらわれたサンタクロース！笑顔のなかにも時折見せる真剣な眼差しであるその彼の正体は？！ われらが沖縄病院院長 川畑 勉先生です！！

特技は琉球舞踊 診察、セカンドオピニオン、もちろん手術も！院長サンタクロースは参加者と共に歌い、華麗に舞い、大活躍でした。さいごには司会者の一声で「かちゃ〜し〜（沖縄ならではの？）」も始まり、大変盛り上がりました。今年も専門病院として院長を筆頭に全職員一同、頑張ります！



ゆく年 くる年～年末年始のくわ^御ち^ちそ^そう^うの巻き～

栄養科 砂川 寿乃



おきなわそば



いなむどうち
りんがく

新年あけましておめでとうございます。

沖縄県も霰も落ち、寒さ厳しくなってきましたが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

沖縄病院では大晦日、元旦に行事食を提供いたしました。年越しの食事と言えば、

8割近くが天ぷらに乗せたおそばを食べる習慣があるようです。沖縄県では一般に言われている

「そば粉」を使用する日本そばとは異なり、「小麦粉」を主原料とする沖縄そばを食します。

沖縄そばは豚骨やかつお節からだしを取り、盛り付け時には砂糖醤油で味付けした三枚肉

（豚バラ）やかまぼこを乗せます。いくつになっても沖縄県民はそばしょ〜ぐ〜（そば大好物）

で、1年を締めくくるのに外せない一品です。

正月料理の特徴として沖縄の郷土料理「いなむどうち」、デザートに、「りんがく」をふるまいました。いなむどうちは甘い白みそ仕立ての具沢山の汁物で正月やお盆によく食べられ、りんがくは田芋を砂糖で甘くした祝い事には欠かせない一品です。私は沖縄病院に配属になって初めての行事食で不安な面もありましたが、患者様から「豪華でおいしかった。」というお声を聞くことができ、栄養科も良い年のスタートとなりそうです。



薬剤師病棟配置 1年目の抱負

薬剤科主任 鈴木 寛人

現在、当院では、病棟に専任の薬剤師を配置し、持参薬含む入院中に使用する全てのお薬について、薬剤管理（飲み合わせ、重複・アレルギーの確認等）を行っています。

また、病棟に配置された薬剤師の管理はもちろん、処方された薬剤が間違いなく、そして安心して患者さんが服用して頂けるようお薬の説明も行っております。特に、抗癌剤などよりいっそうの安全管理が必要な医薬品の使用にあたっては、使用前に、患者さんの状態、薬剤の流量や投与量の計算、相互作用を確認することで、患者さんがより安全な医療が受けられるよう努めています。

また、薬剤師が病棟にいることで、患者さんだけでなく、医師や看護師等の負担軽減につながり、抗菌薬や麻薬の適正使用等、医療安全の面にも関わっています。

今後、薬剤師が各病棟に常駐できれば、チーム医療の一員として、今まで以上に病院全体として質の高い医療が提供できるのではないかと思います。

平成30年2月2日より

乳腺外来が月・金の2回へ増診のお知らせ

浦添総合病院から蔵下 要先生が応援にきてくれることになりました。中部地区医師会、浦添市、那覇市等、当院と乳がん検診を契約されている市町村の皆さん、月・金の週2回午後2時から5時の予約にて乳腺外来を行います。お気軽にご連絡ください。



完成 新病棟！！

肺がんセンター 神経・筋センター



新病棟への引っ越しは2月28日です。内覧会は2月24日（土）12～15時です。生まれ変わる沖縄病院をこれからも宜しく願います。



月桃会挨拶

源河 圭一郎

昨年11月にエリスリーナ西原にて月桃会（OB会）を行いました。
源河圭一郎元院長からあいさつをいただきましたのでその内容をご紹介します。

私が沖縄病院を退職して既に15年の歳月が過ぎました。

思い返せば沖縄病院在職中の20年間は激動の時間でしたが、私にとって大変、充実した時間で、貴重な経験と勉強をさせていただきました。

その後の沖縄病院の発展は目覚ましく、神経内科、呼吸器内科、外科しかなかった当時でしたが、今では診療科が増加し、麻酔科、緩和医療科、消化器、一般内科、放射線科、病理診断科が設置され、引き続き、神経・難病、結核・肺がんを始め、すべての診療科の益々充実した良質の医療を期待しています。2年前の筋、神経、難病センターの建て替えに引き続き、今年の12月末には本館建て替え工事が完了の予定と聞いております。その一方で、中期目標管理法人となってご苦労も増えているとお聞きしています。職員の皆様が一致団結して取り組んでいただけるよう、微力ですが応援したいと思います。

先日、私は近くを通った機会に「久しぶりに病院をのぞいてみたい」と思い、立ち寄りさせて頂きました。その時、副院長の大湾先生に偶然お会いし、建築中の本館建て替え工事のお話を聞くことができました。その時、女性職員二人に大歓迎を受けて驚愕しました。それから医局に向かうと、仲本先生から医局を案内して頂きました。15年前の私の在職中の医局と同じである事を目の当たりにして大変うれしく思いました。

定年退職から現在までの15年間、私は一日も休まずに今もフルタイムで勤務しています。現在は老健施設で私よりも高齢な方々と付き合いながら、少子高齢化の厳しい現実と向き合う毎日です。現役時代の私は、肺がんの治療に明け暮れ、手術場で過ごす時間が長かったのですが、高齢社会の中での現在の私の関心は、「認知症と終末期医療」です。この面でも時々、患者さんを沖縄病院に紹介させていただき、職員の皆さまにはお世話になっています。

今後とも公私ともに宜しくと申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。



